

1 竹林を利用したきのこ栽培技術に関する研究 (H30~32)

森林総合研究所

背景・目的

県内の竹林では、峡南地域を中心に、たけのこの生産を行ってきた。また、一部は竹細工の原料・外構材料・壁材などに利用されてきた。しかし、生産農家の高齢化やたけのこ以外の竹需要の減少から、放棄竹林が増加し、畑などに竹が侵入するようになってきた。また、放置された竹林は獣類のすみかになっていることも指摘されている。このため、竹林の有効利用とそれに伴う竹林管理の促進が求められている。

そこで竹林の新たな生産物として、「きのこの女王」として知られ、高級食材として扱われるキヌガサタケを取り上げ、その生態調査、栽培手法の検討を行い、竹林での栽培方法の確立を目的に以下の研究を実施する。

研究内容

- 1) キヌガサタケの菌株収集 (山梨県産菌株)
- 2) 温度特性等の調査 (菌糸の成長、きのこの発生)
- 3) 菌床基材の検討 (基材、栄養剤)
- 4) 竹林内での栽培方法の確立 (埋設方法、竹密度、竹チップ散布等)
- 5) 竹林管理方法の検討 (キヌガサタケのための管理方法、たけのこ・キヌガサタケの両方を生産するための管理方法)

	H30	H31	H32
1) 菌株収集	—————▶		
2) 特性調査	—————▶		
3) 菌床検討	—————▶		
4) 竹林での栽培		—————▶	
5) 竹林管理手法		—————▶	
予算(総額3,676千円)	1,690	1,133	853千円

期待される成果

- キヌガサタケ栽培による新たな竹材の利用促進
- 新たな生産物(キヌガサタケ)の竹林への導入と竹林の活用
- 最適な竹林管理方法の開発

